

ようご



QRコードを読み込むと岩手県学校保健会養護教諭部会HP (<http://www2.iwate-ed.jp/yougo/>)につながります。

発行 岩手県学校保健会
養護教諭部会
編集 広報部
令和元年9月30日
<http://www2.iwate-ed.jp/yougo/>



あいさつ

会長 上 舘 睦 子

会員の皆様におかれましては、日頃より当会の活動に対し、ご理解とご協力、ご支援をいただき誠にありがとうございます。

近年子供たちを取り巻く環境がめまぐるしく変わる中、養護教諭の職務も多様化・多忙化しています。働き方改革が大きく掲げられている反面、一校一人配置が大半である養護教諭は、複雑かつ深刻化している子供たちの対応をはじめ、多岐にわたる業務をこなす負担が年々大きくなっているようにも思います。

東日本大震災から8年が経ち、「東日本大震災支援対策委員会」の活動も昨年度末をもって終了しました。三陸鉄道の全線開通やラグビーワールドカップ釜

石開催など復興は確実に進んでいますが、震災の子供たちへの影響は年々把握することが難しくなっているようにも感じます。そのためにも私たち養護教諭は、諸先輩方が培ってきた歩みを次の世代へ引き継ぐと共に若い世代の良さを生かし、会員同士で互いの実践を交流し学び合うことが大切です。そのことが子供たちが抱える健康課題の解決にもつながると思います。

さて、11月20日の第43回岩手県養護教諭研究大会では「子供の自尊感情をどう理解し育むか」と題し、日本ウェルネススポーツ大学教授の近藤卓先生より講演をしていただきます。震災も含め、現代社会は子供たちの自尊感情にどう影響を与えているのか、そして私たちはそれをどう理解し何ができるのか等、学ぶことができる良い機会だと思います。

最後に、役員一同、皆様の職務の充実と発展のため、本会の運営に努めて参りますので、どうぞよろしくお願いたします。

定期代議員総会

5月27日(月)、いわて県民情報交流センターにおいて定期代議員総会が開催されました。来賓として、岩手県教育委員会事務局保健体育課総括課長 清川義彦様、同じく指導主事 千田雅子様にご臨席を賜りました。

菊地玲子会長は、今年度から資質向上のためのセルフチェックシートの活用が始まったことに触れ、「本部会では、研修・研究会等の活動を通し、養護教諭の資質向上につながる実りある活動にしたい。」と挨拶しました。

保健体育課総括課長 清川義彦様からは、今年から新たに始まった「いわて県民計画」におけるテーマ「県民の幸福の保障」に触れ、「学校組織あるいは地域と連動・協働していただきながら先生方のお力と専門性を発揮していただき、児童生徒の健康の保持増進、そして幸福度向上にもつなげていただきたい。」とご挨拶を頂戴いたしました。また、第52回東北学校保健大会が今年7月に本県で開催されるにあたり、「各県の先生方との交流を図りながら、研鑽を積む機会とし

ていただきたい。」と参加を呼びかけられました。

議事は、議長の今野玲子先生（胆江地区）と皆上裕美子先生（一関地区）により進められました。協議では、事業計画①第43回岩手県養護教諭研究大会の開催について、開催要項をホームページでの配信とすることが提案され、承認されました。活動のまとめは、部会誌「ようご岩手」に掲載する予定です。

その他、協議事項については、総会資料をご覧ください。
(事務局員 久多良知花)

— 平成30年度事務局旧役員 —



— 令和元年度事務局新役員 —





演題 「学校保健の動向について」

講師 岩手県教育委員会事務局保健体育課

指導主事 千田 雅子氏

1. 肥満について

岩手県の肥満傾向児の出現率について、全国と比べ、岩手県は相変わらず上位にはいるが、以前に比べ徐々に改善してきている。

肥満への取組は全校種ほぼ100%実施されているので、次は効果的な指導方法について実践交流をしていくことが必要である。

また、小学校低学年程度肥満児へのアプローチとして、「ぺっこアプローチ」というハンドブックが県内小学校に配布されている。ホームページでダウンロードが可能なので活用してほしい。

2. 薬物乱用防止教育

岩手県小・中学校における薬物乱用防止教室は、平成29年度に比べ平成30年度は実施率が上昇している（高校はH29,30年度とも実施率100%）。小学校においては「地域の実情に応じて実施すること」とされているが、昨今の状況を見ると、小学校から実施することが望ましい。飲酒、喫煙や医薬品から導入するなど発達段階を踏まえながら実施いただきたい。

近年、大麻の若年齢化が問題になっている。入手方法も巧妙化しており、インターネットを通じて購入する事例が多い。以前は、誘われる事例が多かったが、最近は一人で悩んでどうしようもなくなって、手を出してしまう事例が増えている。悩んだり落ち込んだりした時にどのようにストレスに対処していくかということに触れながら指導していただきたい。

3. 感染症の予防

麻疹が最近再び流行している。麻疹は感染力が強く合併症が怖い感染症である。感染者が出た場合、二次感染予防が大切であるため、保健所と連携し適切に対処していただきたい。



4. 新学習指導要領について

来年度から小学校で新学習指導要領が実施となる（2021年中学校、2022年高等学校実施）。

保健領域では、生涯にわたり健康を保持増進する資質・能力



育成のため、知識だけでなく技能を身につけることが強調された。また、「心身の健康の保持増進に関する教育のイメージ」として、教科等横断的視点から教育課程を編成することや、「個別指導を行うこと」ということが加えられた。

さらに、高校の「現代社会と健康」の単元で「精神疾患の予防と回復」が加えられた。

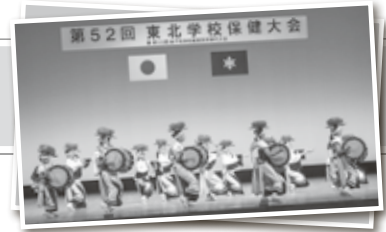
学習指導要領においては、養護教諭の役割、専門職としての活かし方を考えていかなければならない。具体的には、組織的包括的継続的な取組で、集団指導が効果的なのか個別指導が効果的なのかを見極めること、保健教育においては、学習指導要領を意識した実践をすることである。また指導する際には、児童生徒が安心感をもって、生き活きと自分らしさを発揮できる学習空間作りにも配慮をお願いしたい。

5. 学校における健康課題解決

健康課題解決のための学校における協働・連携・組織が成り立つ3要素として、『共通の目的』、『協働する意思』、『コミュニケーション』がある。この3つを意識していくことが大切である。また、職場内のみならず、養護教諭同士のつながりも大切にしていきたい。多くの人が、職場内に一人という立場であり、経験の有無にかかわらず、自分の力で頑張っていかなければならない状況である。その中で、みんなで支え合っていくことが大切だということを確認したい。

第52回 東北学校保健大会報告

令和元年7月30日(火)～31日(水) 岩手県盛岡市



【1】基調講演

◇「性同一性障害を乗り越えて～自分らしく生きるために力強さと繊細さを追求して～」

講師 津軽三味線奏者 三代目 井上 成美氏

井上さんの力強さと繊細さが融合された津軽三味線の演奏を聴きながら自分らしさについて学び、考えることができました。今、「LGBT」という言葉が浸透し、多様な性が身近にあることを多くの人が認識しています。しかし、教育の現場で多様な性に十分に配慮ができていないかと言えば、そうではないと私は思います。私自身も普段の性教育や健康診断などを思い返すと反省が多々あります。井上さんは、「LGBTという言葉がなくても当事者が自分らしく生きることのできる社会になれば」とお話していました。私も養護教諭の立場として、子供たちが自分らしく、そして「みんなちがってみんないい」の思考が広がるような関わり方をしていきたいと思いました。

(岩泉町立門小学校 瀬川 歌奈)

【2】第2分科会（心の健康・心のケア）

◇児童生徒のストレスマネジメント～保健室と保健教育からのアプローチ～ 山形県天童市立第二中学校 養護教諭 門間美代子
天童・東村山地区養護教諭部会で研究してきた子供のストレスマネジメントについて、保健室（ケア的側面）と保健教育（予防的側面）の実践発表でした。

保健教育では、ストレスを伴うことが続いたときに落ち込んだりすることを心のメタボ（メ：めんどくさい タ：ため息をつく ボ：ぼーっと足を引きずる）と呼び、「こころのABC活動」（A：アクティブ B：ピロング C：チャレンジ）でメタボであるネガティブな気持ちを小さくする取組が紹介されました。

◇心の健康における本校の取り組みについて～東日本大震災当時と現在の支援体制について～

岩手県立大船渡高等学校 教諭 高橋 香

東日本大震災当時から現在に至るまでの、スクールカウンセラーの支援や、校内での保健講演会の取組などが紹介されました。教育相談室は独立した分掌にあり、中学校との引継ぎカードによる連携や、校内での情報共有体制が整備され、現在も全職員による心のケアが実施されていました。

◇助言

岩手大学大学院教育学研究科 教授 山本 奨氏

助言者からは、未成年の自殺は少しずつ増えていること、予防のためには心の危機に陥った友人への関わり方・友人からのSOSをキャッチした時の対応についても児童生徒に教えることが望ましいことが話されました。

(一戸町立鳥海小学校 高村 庸子)

【3】第3分科会（性に関する指導）

◇心に響く「性に関する指導」～大人へ成長する心と体を大切にしている児童の育成を目指す～

宮城県栗原市立鷺沢小学校 養護教諭 狩野 麻紀

WYSH教育の実践を紹介していただきました。性に関する知識を指導するだけでなく、子供たちが夢や希望を持って未来へ進めるようにという願いがこめられた実践でした。指導に使用したパワーポイントも工夫されており、子供たちが楽しく学べる内容になっていました。また、セクシャルマイノリティにも触れ、多様な性があることや同性を好むことがあることもお話されており、どの児童にも配慮が行き届いている実践だと感じました。

◇学校における性に関する指導の進め方～これまでの実践から見えてきたもの～ 岩手県盛岡市立米内中学校 校長 坂下 孝
子供たちに幸せになってほしいとの願いがたくさん込められた実践の数々を紹介していただきました。

性に関する指導は配慮事項がたくさんあり、私自身も実践しにくいと感ずることがあります。しかし「性=生」であるように子供たちが未来に目を向け、希望を持てるようにまずは、私たち自身が実践を重ねていくことが大切だと感じました。

◇助言

岩手県立大学看護学部 助産学・母性看護学 教授 福島 裕子氏

性教育とは生きる教育ですが、その指導をする前に子供たちの自己肯定感を高めることが大切だと教えていただきました。他者からの「あなたは大事だよ」というアプローチが子供の心理的欲求を満たし、自分自身の身体を大切なものとして思い行動ができるそうです。助言をいただき、子供たちへの性教育を行うだけでなく、普段から子供たちとの関係づくりを大事にしていこうと思いました。

(岩泉町立門小学校 瀬川 歌奈)

【4】第6分科会（安全教育・危機管理）

◇生徒の主体性を育てる持続可能な安全教育～2in1の考え方～

岩手県一関市立大原中学校 副校長 大和 浩・養護教諭 皆上裕美子

既存の活動・学習に取り込むことで、新たな負担が生じず、かつ継続的に学習できるものにする、また安全指導、防災学習に特化することなく、取組を通して発表力やコミュニケーション能力を高めるなど、2in1の考え方に努めた取組でした。全校及び学年単位での学習の他、通学路の自己チェックや生徒会主催の避難訓練等、様々な場面を活用して、多方面の力を培っていました。

◇自ら学び、共に高め合う子どもの育成～家庭・地域と連携した防災教育の実践～ 福島県福島市立佐倉小学校 教諭 菅野 沙知
豊かな自然に恵まれている一方で、洪水が頻回に起こり、山の噴火も危ぶまれる地域にある学校で、防災教育について全学年を通して系統立てて取り組んでいました。保護者も巻き込む防災フィールドワークや非常時持ち出し袋の家庭での作成、幼・小・中合同の避難訓練等、家庭や地域・関係機関とも連携することにより、地域全体で災害に備えていこうとする意識を高めていました。また郷土をよく知るにより「災い」だけではなく「恵みと愛」について深めることができた実践発表でした。

◇助言

文部科学省総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課 安全教育調査官 森本 晋也氏

医療現場でも重要視するノンテクニカルスキルが災害時にも必要で、それを育む教育と体制づくりに努めてほしいと話されました。

(岩手県立岩泉高等学校 中野 静香)

全国養護教諭 連絡協議会

令和元年度 総会並びに第21回学校保健連絡協議会

6月15日(土)、東京ヒューリックホールにおいて、令和元年度全国養護教諭連絡協議会総会並びに第21回学校保健連絡協議会が開催されました。

学校保健連絡協議会では、「病気の子供たちの教育的ニーズに対する対応」と題し、文部科学省初等中等教育局特別支援教育調査官の深草瑞世先生の講演と「学校保健の動向」と題し、文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課健康教育調査官の松崎美枝先生の講演がありました。

深草先生の内容は、特別な配慮を要する児童生徒の成長に合わせた「合理的配慮」の意味や子供が有意義な学校生活を送るために私たちが出来ることについて話されました。松崎先生は、ゲーム障害をはじめとし

たギャンブル依存症に関する教育の大切さやAEDの設置場所が学校内で適しているか、いじめの定義において教職員間で共通理解が図られているか等、身近な問題でありながらも全職員で確認しなければいけない内容について改めて気付かされました。

総会に参加し、ますます多忙化・多様化する養護教諭の職務内容についてどう捉え、どう解消させていくか、働きやすい環境づくりとはどうあればよいかということをも自分なりに考える機会となりました。対応している児童生徒の処置や緊急時の判断がより適切に、より丁寧に行えるためにも職務内容の見直しや整理が必要だと感じました。(会長 上館 睦子)

第54回 東北地区養護教諭連絡協議会

7月30日(火)に、いわて県民情報交流センターにおいて「第54回東北地区養護教諭連絡協議会」が第52回東北学校保健大会に先立って開催されました。本会は、東北6県と仙台市の養護教諭研究団体で組織され、各県の活動状況や養護教諭の現状を情報交換しながら諸問題を協議する会です。

はじめに昨年度の会務及び決算、本年度の会務及び予算の提案があり承認されました。続く協議では、「養護教諭の世代交代が進む中での課題と対策について」をテーマにして各県から現状の報告と情報交換・意見交流が行われました。

各県から、学校の統廃合が進み、会員数が減少していることや、退職者と新規採用者が増加し世代交代が

進み、年齢構成がアンバランスになっている現状について報告がありました。次世代の養護教諭への支援や継承をどのようにするか、養護教諭自身の資質の向上をどう図っていくか、養護教諭の職務が多岐にわたり複雑・多忙化していることにどう対応していくか等の課題が挙げられました。その対応として研修会や実践交流会の開催、交流や学びの場・多忙化軽減を目的にホームページを活用していること等、各県の取組について交流することができました。

最後に、次年度開催県の宮城県より日程・会場のご案内をいただき閉会となりました。

(副会長 紺野 道子)

平成31年度(令和元年度)新採用の先生方

櫻 又 遥	盛岡市立太田小学校
菅 原 幸 恵	盛岡市立羽場小学校
田 村 美菜子	八幡平市立安代中学校
八重樫 麻 緒	花巻市立大迫中学校
渡 邊 夏 帆	遠野市立上郷小学校
内 山 彩	遠野市立綾織小学校
中 川 育 美	奥州市立伊手小学校
千 田 咲 良	一関市立滝沢小学校
福 土 育 美	一関市立永井小学校
佐 藤 葵	一関市立川崎小学校
新 井 桃 子	一関市立黄海小学校
畠 山 美 帆	大船渡市立綾里小学校
島 津 新 菜	陸前高田市立横田小学校
及 川 優花子	陸前高田市立高田第一中学校

伊 藤 舞 子	大槌町立大槌学園
八重樫 花 穂	宮古市立高浜小学校
石 原 梓	宮古市立亀岳小学校
照 井 茉美香	宮古市立赤前小学校
小森田 真 奈	宮古市立新里小学校
畠 山 さくら	宮古市立宮古西中学校
伊 藤 彩 夏	宮古市立田老第一中学校
伊 藤 和 叶	九戸村立江刺家小学校
村 木 ゆ き	岩手県立盛岡視覚支援学校
外 館 実	岩手県立盛岡青松支援学校
佐々木 智 春	岩手県立西和賀高等学校
野 崎 ほなみ	岩手県立宮古工業高等学校
中 田 道 子	岩手県立伊保内高等学校